

令和6年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
【目指す教育】 1 育成を目指す資質能力に関する方針(このような力を育てます) ・自主・規律・誠実の精神を持った社会性を身に付け、夢に向かって何事にも挑戦する意欲や力を育成する。 ・地域に学び、地域や地元企業と連携した取組を通して、探究心を身に付けるとともに、課題解決に向けた実践力やコミュニケーション能力を育成する。 ・高い志を持ち、自ら考えて行動し、主体的にリーダーシップを発揮して地域社会を牽引する力を育成する。 ・生涯にわたって主体的に学び続け、社会に貢献できる資質の高い人材を育成する。 2 教育課程の編成及び実施に関する方針(このような教育活動を行います) ・日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校」以来の歴史と伝統を引き継ぐ。 ・京丹波町をはじめとする地域住民・企業等と密接に連携した探究活動を取り入れ、主体的・協働的に学ぶ機会を多く設ける。 【食品科学科】 ・「土から食卓までを結ぶ」農業の6次産業化の学習として、「食の宝庫」京丹波町の地域特性を活かし、地域や企業と連携した実践的な学習に取り組む。 ・「食のスペシャリスト」を目指し、より専門的な知識・技術の習得を目指す。 【普通科】 ・少人数・学習態度別授業、進路に応じた選択科目、ICTの活用、きめ細かな学習サポートなど、個に応じた学びを保障し、丁寧に対応する。 ・「総合的な探究の時間」では、地域や自己の進路・興味を着眼点にテーマを設定し、課題解決に向け主体的に活動することで実践力・応用力の定着を図る。 3 入学者の受入れに関する方針(このような生徒を待っています) ・本校の教育内容に興味・関心を抱き、専門分野の学習や探究学習に積極的に取り組むことができる生徒 ・本校で学んだ知識や技術を、将来にわたり地域社会の発展に活かそうとする意欲がある生徒 ・夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自分の未来を切り拓こうとする生徒 ・高い志を持ち将来の進路について明確な目的意識を有し、最後まで努力できる生徒 ・学習、部活動、生徒会活動等に積極的・主体的に取り組むことができ、学校生活全てに強い活動の意欲を持つ生徒		【成果】 ◆生徒の可能性を伸ばす個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びを推進するとともに、府教委指定「京都フロンティア校（地域創生推進校）」を軸とするきめ細かな学習指導、生徒指導、進路指導により、個々の生徒に応じた学力向上、希望進路実現を図れた。 ◆新型コロナウイルス感染症が、第5類に移行したことに伴い、学校祭、球技大会、農業クラブ行事など、感染防止の対策に努めながらも通常に近い形で実施し、生徒の活躍の場を確保することができた。クラスの連帯感や責任感を育むとともに、集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育てることができた。 ◆校内の教職員研修として、「ロイロノート」についてICT研修、スクールカウンセラーによる発達特性についての研修、総合的な探究の時間についての研修、大学入試制度についての進路研修、人権研修、ハラスメント研修などを実施し、教職員資質向上の機会を設けた。 ◆令和5年度京都フロンティア校（地域創生推進校）として、地域を支える人材育成を理念に、地域貢献や地域との連携を積極的に推進するため、総合的な探究活動では京丹波学の取組、芸術総合では竹細工や和知太鼓の取組を通して地域の文化や生活について学び、食品科学科では、地元食材を活かした加工品開発やウィードの森に関する研究など、地域資源を活用した取組を実施し、フロンティア成果発表やマイプロジェクトアワード、地域の発表会などへ参加することで、本校の取組を広く発信することができた。 ◆農業クラブ活動として近畿学校農業クラブ連盟の事務局を担当し、大会としては3年ぶりとなる集合型で実施し、成功裏に終えることができた。 ◆食品科学科の学習の一環として行っている菊作りでは、日本菊花展全国大会にて高い評価を受け、農林大臣賞、防衛大臣賞、環境大臣賞をいただく快挙を達成した。 ◆少人数ながら各クラブは盛んに活動しており、男子ホッケー部においては近畿高等学校ホッケー選手権大会で21年ぶりに優勝、全国インターハイではベスト8と活躍した。 ◆京丹波町担当課の協力により、2年生の就職希望者を対象にしたインターンシップを実施することができた。生徒は、勤務に関わる体験的な活動を通じて職業に対する理解と関心を高め、将来の職業について考える機会となった。 ◆広報活動では、SNSによる迅速な情報発信を図るとともに地元中学校と連携した新たな取組を推進することができた 【課題】 ◆体系的に整理したスクール・ポリシーをもとに組織的かつ計画的な教育活動を推進する。 ◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進すること。 ◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行う。 ◆広報活動では、SNSによる迅速な情報発信を図るとともに地元中学校と連携した新たな取組を推進することができた 【課題】 ◆体系的に整理したスクール・ポリシーをもとに組織的かつ計画的な教育活動を推進する。 ◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進すること。 ◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行う。 ◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をする。 ◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高める。 ◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進める。 ◆部活動や普通科の探究学習、食品科学科の課題研究の取組を活性化すると共に、その活動を通した中高連携による生徒間交流を積極的に行う。 ◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進める。 ◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討する。 ◆京丹波町立中学校からの志願者を増やす取組を一層推進する。	【学校経営主題】 「生徒の個性や能力を最大限に伸ばす時代の変化に応じた 個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びの充実」 【重点項目】 1 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす時代の変化に応じた個別最適な学びの継承 ◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進する。 ◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌との連携を強化する。 ◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力を育成する。 ◆教科横断的な「総合的な探究の時間」の指導体制の充実を図る。 2 地域や企業、高等教育機関・研究機関等との連携強化 ◆京丹波町をはじめ地域の関係機関と連携した協働的な学びを展開する。 ◆農業の6次産業化を推進するための企業や研究機関等との連携を強化する。 ◆大学の高等教育機関と連携して各教科・科目の学習内容を充実・深化を図る。 3 生徒指導と部活動等の充実による学校の特色化 ◆ルールやマナーを守り、規範意識のある生徒を育成する。 ◆部活動、農業クラブ活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性を育成する。 ◆ホッケー部員の全国募集と全国大会入賞を目指して学校の特色化を推進する。 ◆茶道、古典、和知太鼓など伝統文化に係わる教育活動の継承発展を図る。 4 積極的な生徒募集活動と情報発信 ◆中学生のニーズに応じた生徒募集活動を一層推進する。 ◆地域の小中学校と更なる連携した取組を一層推進する。 ◆学校ホームページ、インスタグラム、須高通信、須高だより、学校紹介動画などを活用して学校の旬な話題を発信し、生徒募集につなげる。 ◆報道機関(新聞、京丹波町ケーブルテレビなど)への積極的で効果的な情報発信を推進する。	

分掌教科	項目（重点目標）	具 体 的 方 策 及 び 数 値 目 標	評価	成 果 と 課 題
教務部	新学習指導要領の趣旨に対応した取組	・ 観点別評価の在り方を教科横断的に共有し、学校全体としてカリキュラムマネジメントを円滑に行い、指導と評価の一体化を図る。	B	評価方法については各教科に委ねており、教科横断的に統一していないが、教育課程の改編等、円滑なカリキュラムマネジメントに向けて協議・検討を重ねた。一方で、生徒自身が学習用端末を主体的な学びのツールとして活用できたとは十分言えないように感じる。 公開授業やスタディサブリ教職員研修等の機会を設け、教職員の授業力・ICT活用力の向上に努めた。今後はデジタル採点ナビ等の効果的な活用に向けた研修も行っていく。
		・ 公開授業週間等を利用し、学習用端末を主体的探究的な学びのツールとして活用するための様々な授業展開や教材の共有を図る。	B	
生徒指導部	自主活動の活性化	・ 生徒会を中心に有意義な行事が実施できるように指導する。	A	事前の打ち合わせ等を綿密に行うことがで、行事を円滑に運営することができた。 生徒会本部と話し合いを設け、校則については見直しを図ることができた。しかし、課題として今年度は校則アンケートをとることができなかったので、必要に応じて指導していく。
		・ 校則や指導の方法について、生徒会と話し合いを持ち、必要であれば見直しを図る。	B	
進路指導部	進路指導の充実	・ 進路指導部内での報告・連絡・相談（「ホウレンソウ」）を徹底し情報を共有することで、進路指導部として一貫した指導を実践する。	B	部内での報告・連絡・相談は概ねできた。進路情報を提供し、生徒それぞれの希望や適性に合った進路希望の設定をサポートに努めた。
		・ 各分掌と協力し、進学・就職に関する進路情報をできるだけ多く生徒や教職員へ提供し、生徒それぞれの希望や適性に合った進路希望の設定をサポートする。	A	

分掌教科	項目（重点目標）	具 体 的 方 策 及 び 数 値 目 標	評価		成 果 と 課 題
保健部	生徒の健康状態を適切に把握し、早期発見、支援に繋げる。	・学校等欠席者・感染症情報システムなどを活用し、体調不良者や欠席者を正確に把握する。	B	B	感染症等の情報については、管理職とも連携を図りながら迅速に把握することができた。また、心の不調を訴える生徒が増加している中で、SGとの連携を密にし、適宜助言を行ってもらう機会を設けることができた。
		・スタディサプリも活用しながら、欠席、遅刻状況の確認を迅速かつ、円滑に行う。	B		
人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	・各学年毎に人権学習を実施する。基本的な人権を正しく理解させ、学校生活の中で人権を意識した行動が出来るように指導する。	A	B	各学年の人権学習を実施することができた。人権学習を通してお互いの人権尊重の思いを持つことができるように指導した。 人権委員会では、世界人権デーに合わせてポスター・標語を作成し展示することで人権啓発をすることができた。
		・生徒会人権委員会の活動を充実する。	B		
農場部	食品科学科の特色を活かした取組の推進と地域連携の充実	・課題研究を中心として、地域の小中学校や関係機関、企業との連携を積極的に推進する。	A	A	小中学校・企業と連携し研究活動や新商品の企画・販売、新たな取組のきっかけづくりなど、各コース・担当で進めることができた。次年度も継続し、より効果的に推進し、生徒募集につなげていきたい。 発表会・コンテストには各コース2つ以上参加すると年度当初に分掌内で目標を立てた。結果、乳肉加工（1発表、2コンテスト）、農産加工（1発表、2コンテスト）、生物活用（1発表、4コンテスト）に参加することができた。また、専門部でも対外的に積極的に活動をすることができた。 農業クラブ府連盟大会優秀賞、毎日新聞農業記録賞佳作、7thザ・ナース・アワード 銀賞、日本菊花全国大会高松宮妃記念杯
		・各種発表会やコンテスト、イベントに積極的に参加し、日々の学習成果を内外に発表していく。	A		
第1学年部	基礎学力の向上	・学習環境を整え授業に集中する。	B	B	明確な目標を持ち努力を重ね良い結果を残せた生徒がいた一方、考査前でも危機感を持って学習に取り組めない生徒がいるなど、学習への取組意欲は生徒によって差が見られた。課題提出や復習などに学習端末やスタディサプリを使用したが、全員が十分に活用し切れていたとは言えないので、今後は更に活用を進めていく。
		・学習用端末及びスタディサプリを有効に使い家庭学習の習慣化を図る。	B		
第2学年部	進路実現に向けて、学力を向上させる。	・日々の授業を大切に、全員が集中できる雰囲気構築する。	B	B	各種進路ガイダンスや情報発信、進路調査等により、自らの進路方針について具体的に考えることができるようになってきた。一部未定の生徒もいるため、本人の適性を含めた進路指導を推進していくことが課題である。 タブレットを学習端末として適切に利用するための工夫が必要と感じる。
		・自分の適性を知り可能性を広げるため、模擬試験や資格取得に積極的に挑戦する。	A		
第3学年部	社会人基礎力を高める（目指す生徒）。	・基本的な生活習慣の確立、日頃の身だしなみ・態度・言葉遣いの定着を図る。	B	B	学校行事等では主体的かつ模範的な行動をとり、須高祭を盛り上げることができた。一方、提出期限を守れない生徒や遅刻の多い生徒への指導を行うも改善が見られない生徒が一定数いた。検定試験に挑戦した生徒が少数いた。
		・最上級生としての自覚を持ち、学習意欲を高め、学校行事・部活動・生徒会活動において主体性を保ち、模範的な行動をとる。	A		
事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。	B	B	各分掌・教科と連携し、適切な予算執行に努めた。老朽化した施設設備の維持修繕と、学校の特色化・学力向上推進のための環境整備を、限られた予算の枠で両立していくことが継続的な課題である。
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置を行う。	B		
国語科	「ことばの力」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・実社会に必要な国語の知識・技能の定着を図り、言葉によって、他者の考えや思いを適切に理解したり、自身の考えや思いを効果的に伝えたりする力を養う。	B	B	小テストや小論文の指導などを通して知識・技能の定着を図ったが、自身の考えや思いを伝える力を十分に養うには至らなかった。また、「話すこと・聞くこと」に関する授業を積極的に展開したが、指導方法には改善の余地がある。学習用タブレットについては、各教員が積極的に利用し、タブレットを通じて補助的な教材を用いるなど、基礎学力の定着に向けて取り組むことはできた。
		・互いの主張や論拠を吟味し、考えを広めたり深めたりといった「話すこと・聞くこと」に関する授業を展開し、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	B		
地歴公民科	進路実現に向けた学力向上を目指す。	・主体的、対話的で深い学びにつながる授業実践の工夫をする。	B	A	協働的な学びの時間を十分確保できなかったが、問いを立てたり対話をしながら授業を行うことができた。思考力を問う考査を作ることができたが、今後はさらにバリエーションを増やす必要がある。
		・暗記だけでなく思考・表現力を培うことができるよう、定期考査の工夫をする。	A		
数学科	学力『伸長』	・基本に重点をおき、数学ができるようになったと実感できる指導を実施する。	B	B	昼休みや放課後等も活用しながら個別指導を行った。日常との関連については不十分だったため来年度は関連付けた授業を展開していきたい。
		・身の回りに潜む数学的事象を扱い、日常と数学を関連付ける。	C		
理科	新学習指導要領に沿った授業および評価を行う。	・3つの観点を基に、生徒のあらゆる学習活動を多面的な視点から観察し、生徒のもつ能力を適切に評価できるような授業を構築する。	B	B	全学年が観点別評価となったことから、評価のつけ方に関して教員間での共有・議論などを活発に行うことができた。実験や対話等を中心とした授業も設けることができたが、進度の確保と両立するための頻度や方法などに関して、次年度以降検討を重ねる必要がある。
		・ディスカッションや対話型授業などから、科学的思考に基づく意見の伝え方について学び、生徒が今後の社会で生き抜くために必要な力について考え、それを養う機会を積極的に設ける。	B		
保健体育科	健康の増進と体力・精神力の向上	・適切な運動負荷により、体力と精神力を向上させる。	A	A	生徒が自己にあった効果的な運動の仕方、体づくりができた。 技能の向上だけでなく、他と協力して運動に親しむ姿勢を育むことができた。
		・選択授業等を通じて安全に自らが計画して運動に親しめるようにする。	A		

分掌教科	項目（重点目標）	具 体 的 方 策 及 び 数 値 目 標	評価		成 果 と 課 題
芸術科	自己肯定感を高め、粘り強く取り組む力や挑戦する力を培い、実技能力を向上させる。	・生徒の良い所を積極的に言葉にして伝え、生徒の自己肯定感を高める。	A	A	生徒との会話のやり取りや、振り返りシートのコメント等で励まし、良い所や成長を伝える事ができた。今後は生徒達の個々の能力に合った目標に向かってアドバイスをよりの確に伝えていきたい。
		・曲や作品を仕上げる過程において、毎時間の目標を定め、試行錯誤を繰り返し、臆せず挑戦し続ける力を身に付けさせる。	B		
英語科	基礎学力の定着と進路実現に向けた学力の伸長	・ICTを効果的に活用し、基礎・基本の理解促進を図る。	A	A	ICTを効果的に活用し、基礎・基本の理解促進を図った。少人数授業の利点を生かし、ていねいな指導を充実させた。
		・少人数授業の利点を生かし、ていねいな指導を充実させる。	A		
家庭科	生活を主体的に営む力の育成	・生活の中から題材を選び、授業と生活の関連性を感じられる授業を展開する。	A	B	習得した知識や技能を普段の生活に生かし、よりよい衣食住生活の充実に向けた活動を行っていた。
		・基礎的知識・技術の習得に向けた題材を設定する。	B		
農業科	専門的な知識と技術を身に付けさせる。	・実践やICTの活用をし、具体的で分かりやすい授業を展開する。	B	B	実習レポートの作成・提出や教材の効果的な提示、小テスト等にICTを活用する授業が多く見られた。ただし、農業科のエリアはネットワーク環境が未整備のため、場所によっては使うことなく終わった授業もある。 資格取得に関しては積極的に受験する雰囲気をつくることができなかった。 計画的に社会人講師を活用し、生徒の関心意欲を高めることができたものが多かった。
		・資格取得を一層推進する。	C		
情報科	情報技術の学習を通じて、情報社会を生き抜く能力を育成する。	・コミュニケーションの手段としての情報の特性を理解し、円滑に活用する能力を育成する。	A	B	プレゼンテーション資料の作成方法の学習などを通じ、コミュニケーションの手段としての情報機器を有効に活用することができた。一方、SNSの適切な活用など個人情報に関わる問題の指導は不十分だった。
		・個人情報や知的財産権の保護など社会的責任を伴う問題についての理解と自覚を養う。	C		
総合的な探究の時間（１年）	「京丹波学」をとおして、京丹波町や須知高校の魅力を再発見し、継承する力を培う。	・京丹波町の歴史・文化・自然・環境・産業・観光・スポーツ等について学び、理解を深めるとともに、地域社会の課題を考察する。	A	A	地域探究コースでは、地元の役場の職員や地域で活動している人の講演を聞いたり、グループワークを実施し、地域の課題について認識を深めることができた。
		・須知高校と京丹波町の関係性について学び、今後、須知高校が地域社会に貢献する方策を考察する。	A		
総合的な探究の時間（２年）	課題の発見・問題解決の能力や自己表現力を身につける。	・生徒が自ら立てた課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習を進める。	A	A	自身の興味関心に基づいたテーマを設定し、情報収集・整理・分析の一連の探究手法を身に付けられるマイプロに取り組むことができた。授業担当者間での役割分担を年度当初に行いスムーズに授業を展開することができた。また、教務部と連携し、普通科１・２年生合同で発表会を開催することができた。探究の過程で進路開拓をすることができた生徒もいた。マイプロ京都府Summitに12名も出場することができた。今後は、社会参加の視点や、学術的な裏付けをより強化するなど、さらに質の高い探究活動を展開していきたい。実現のためには、より多くの教員が生徒の探究活動に伴走できる仕組みづくりをしていく必要がある。
		・情報収集・整理・分析やグループワーク・プレゼンテーション作成等を通して、自身の考えを表現し、まとめていく機会を作る。	B		

学校関係者評価委員会による評価	◆日本菊花全国大会における高松宮妃記念杯の受賞やホッケー部の活躍、地域と一体化した取組など、素晴らしい取組の数々が夢へ踏み出す切っ掛けとなっている。少人数で大変丁寧な生徒対応が、学力の定着となり進路実現に貢献している。そうしたことが結果的に、充実した高校生活へと繋がっている。アズビル山武財団奨学金についても大変魅力できでありがたい。これらの活動をもっとアピールやPRして欲しい。 ◆少人数で教員２名体制もあり、丁寧な授業で生徒も集中して学習に取り組んでいる。伝統文化の取組も盛んで生徒は大変熱心により組んでいる。食品科学科の取組についても、生徒が主体的に活動している姿が印象的であった。 ◆ホッケー部については、他府県からの希望者も複数いるが、他の高校に流れている。府や町が一体となって、寮や下宿を設置するなど対応が必要ではないか。 ◆令和８年度には創立150周年となるため、より積極的な活動を期待している。 ◆生徒の発表を聞いて大変素晴らしいと感じた。目的が明確で自らが行ったことや考え等が、自分の言葉でしっかり伝えられている。課題研究の取組も専門性のレベルが高く驚いた。この発表会は今年度初めて学校外で実施されたが、多くの人に生徒の頑張っている姿を見ていただいたり、知ってほしい。そういったことも生徒募集に繋がるのではないか。 ◆地元や中学校と連携した取組は今後も継続してほしい。町外からの志願者も増えており、期待感がうかがえる。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	◆スクール・ポリシー、スクール・ミッションを基に組織的かつ計画的な教育活動を推進するとともに更なる魅力化に向けて見直す。 ◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行うこと。 ◆家庭学習習慣の定着を図るとともに、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をすること。 ◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。 ◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を推進すること。 ◆部活動の活性化に向け、加入率を高めること。 ◆京丹波町と連携した生徒募集活動等を強化し学校の活性化や魅力化に向けた取組を推進すること。 ◆京丹波町立中学校からの志願者を増やす取組を一層推進すること。
---------------	---